

□日本ボランティア学習協会□
2022 年度事業報告（案）

1. 研究活動

ボランティア学習の実践と研究の発展をめざしてつぎの研究活動を行った。

(1) 第 25 回『日本ボランティア学習学会・島根大会』の開催

- ①開催日時：2022 年 11 月 26 日～27 日（土・日曜日）
- ②開催テーマ：「地域共生社会のボランティア学習～多世代がつながる地域づくり、人づくり」
- ③運営主体：第 25 回『日本ボランティア学習学会・島根大会』実行委員会
- ④開催場所：島根県松江市：（全体会：松江市総合福祉センター、分科会：いきいきプラザ島根）
- ⑤開催事務局：大阪健康福祉短期大学・松江キャンパス
- ⑥参加者：総計 249 名（うち、会員 28 名）。学生はオンラインで 47 名参加。
- ⑦開催内容：（概要）

開会式	協会代表挨拶	興梠 寛（日本ボランティア学習協会代表理事）
	実行委員長挨拶	眞鍋 穰（大阪健康福祉短期大学学長）
	来賓挨拶	丸山達也（島根県知事）、上定昭仁（松江市長）
基調講演	「島根発信～地域共生社会の地域づくり・人づくり」松村健次（山陰中央日報社論説委員長）	
シンポジウム	テーマ「地域共生社会のボランティア学習～多世代がつながる地域づくり、人づくり」	
	シンポジスト	藤原睦己（NPO 法人 KEYS 代表）
		吉山 治（雲南市副市長）
		石田洋子（広島大学 IDEC 国際連携機構教授）
	コメンテーター	興梠 寛（日本ボランティア学習協会代表理事）
	コーディネーター	余村 望（大阪健康福祉短期大学学長代理）
自由研究発表	有里泰徳「国際ボランティア専門部の歩みから」（進行：興梠 寛）、猪俣英行「狭山学校支援ボランティアセンター15 年の経緯」（進行：橋本洋光）、八木浩光「外国住民との共生社会づくりを可視化する～多文化共生社会づくりを推進するボランティア活動」（進行：高見大介）、甲野綾子「日本とミャンマーの子ども支援ボランティアからつながるキャリアと子育て～ボランティア学習は人生のパスポート」（進行：齊藤 睦）	
分科会	第 1 分科会	テーマ：「人口減少、少子高齢社会の進行、バリアフリーのまちづくりなどで企業や NPO 法人が地域拠点となって次世代につながるボランティア活動の展開」
		助言者 柴崎 あい（愛媛ボランティア学習研究会事務局長）
		発表者 矢田 誠（株式会社中筋組事務統括本部管理部次長）、水津裕二（株式会社コガワ計画（Mランド）益田ドライビングスクール専務取締役） 田中隆一（特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい代表理事）
		コーディネーター 山本寿子（日本ボランティア学習協会会員）
	第 2 分科会	テーマ：「公民館・交流センター等の地域づくりボランティア活動」（国際化、少時高齢化の今、地域住民と共にある公民館・交流センター等主導による行政を超えた支え合いづくりは不可欠！）
		助言者 馬場祐次朗（全国視聴覚教育連盟会長）

		発表者	細田 昇（赤屋交流センター「あかや てごする会」会長）、青砥晃子・福島勇樹（雲南市教育委員会）、小泉龍真・橘 弘章（たまゆメンバーズくらぶ）	
		コーディネーター	山口信夫（郷土史研究家）	
	第3分科会	テーマ：	「災害ボランティアの重要性と展開～明日、起こるかもしれない災害に向けて」	
		助言者	栗田充治（亜細亜大学名誉教授）	
		発表者	栗原彩矢香・加本梨帆・香取咲良・藤原彩由、曾田愛絵（島根県立大学出雲キャンパス災害研究会）、石橋健一（天理教災害救援ひのきしん隊）、井上曜子（災害ボランティア「ピリッキーノ」）、秋山智久（福祉哲学研究所所長）	
		コーディネーター	林 繁幸（防災・危機管理アドバイザー、八雲公民館運営協議会副会長、松江市町内会・自治会連合会理事）	
	第4分科会	テーマ：	「ボランティア学習で、子どもたちが動き、大人が動き、ひとづくりの好循環、地域づくりの盛り上がりを作り出そう！」	
		助言者	大坪直子（全国体験活動ボランティア活動総合推進センター・コーディネーター）	
		発表者	栗栖真理（浜田第一中学校「放課後遊び隊」）、岡本 祭・大前つかさ・平野咲綺・山崎 鈴・鳥屋孝太郎（明誠高等学校「キャリアサポート」）、檜垣賢一・山崎萌果（一般社団法人豊かな暮らしラボラトリー） 豊田桜子・豊田ちな・斉藤凜子、三浦 渚（益田東高等学校）	
		コーディネーター	大畑伸幸（益田市教育委員会ひとづくり推進監・協働のひとづくり推進課長事務取扱）	
	第5分科会	テーマ：	「社会福祉協会がめざす“人づくりから地域づくり”への「福祉の学び」とボランティア学習の姿を共有する」	
		助言者	立柳 聡（福島県立医科大学看護学部准教授）	
		発表者	畑中咲貴（海士町社会福祉協議会）、田邨真紀夫（浜田市社会福祉協議会）、河井加奈子（島根県社会福祉協議会）	
		コーディネーター	田原秀樹（島根県福祉教育推進協議会副会長）	
分科会報告・閉会式				

(2) 研究紀要『ボランティア学習研究』（第23号）の編集と発行

会員のための研究発表の場として、研究紀要『ボランティア学習研究』（第23号・2022年度版：66頁、150部）を編集し発行した。

① 応募研究論文等を『研究紀要編集委員会』で審査・査読を行い掲載した。

研究紀要の発行までの編集スケジュール（予定） ※日程の変更有	①論文・実践報告の応募希望受付締め切り	2022年6月20日
	②論文・実践報告の原稿提出締め切り	2022年8月30日
	③応募論文の審査結果通知	2022年11月10日
	④研究紀要の発行	2023年3月下旬

② 応募論文や実践報告の他、現代的な研究テーマを設定した課題研究、自由研究、会員投稿、書評などを研究者・実践者の多様なニーズに応じて編集し掲載した。

コラム	内 容	執筆者
課題研究	「ワークキャンプの100年、そして未来へ～つながり、めざめ、わかちあう、新たなボランティアの可能性」 □プレミーティング：PRE-1「地域の人たちとの協同：ワークキャンプ」、PRE-2「高校生自ら企画・運営するワークキャンプでの挑戦」、PRE-3「ワークキャンプを入り口とした、ユースワークの構造分析」 □シンポジウム「分断、孤立を超えるワークキャンプという連帯・共生・自治の作法」	名賀 亨 高見大介 長瀬健太郎 八木浩光 中野 充 西尾雄志 興梠 寛
アレックディクソン賞	2021年度受賞者・団体「認定NPO法人フリースペースたまりば」（ボランティア学習推進部門）	齊藤ゆか
自由研究	実践報告「ボランティア活動の経験と日常生活をつなげる事例報告」	直井友樹
会員投稿	「よそ者が移り住んで得た11年間の軌跡」	浅野和久
書評	「ボランティアたちの物語～東京オリンピック・パラリンピックの記録」（日本財団ボランティアセンター監修）、「社会教育を基盤とした地域づくり資するボランティアの推進体制に関する調査研究委員会報告書」（国立教育政策研究所・社会教育実践研究センター刊）	栗田充治 興梠 寛
その他	会務報告、会則、アレックディクソン賞推薦要項・投稿規定	

③2022年4月から紀要編集の実務を担当する紀要編集事務局を松蔭大学（仲 伯維研究室）に置く。

それに伴い、新たな紀要・第24号の編集事務局体制の準備を始める。

④研究紀要の質の充実のために、事務局運営会議を活用して編集方針を検討する場を設ける。また、紀要に協会の1年間の主な取り組みや予算・決算などの会務報告のページを設けるなど、協会活動の透明性を増すよう努める。

(3) 会員の教材出版への支援

会員の実践や研究の成果を教材等に編集・出版し社会に提供するための支援を行なっている。

①申込み	会員（執筆者）が出版計画を送付し申し込む。
②出版認証	『広報出版委員会』が出版を認証し、執筆へのアドバイス等を行う。
③制作委託	執筆者は、本の編集・制作を『広報出版委員会』に委託する。
④発行	発行元（著作権者）は協会とし、執筆者（著作権者）は会員とする。
⑤買い取り	完成本は、執筆者が買い取ることを条件とする。
⑥販売支援	公式ホームページ、学会、会員への広報等を通して販売を支援する。

※2022年度の申請者はなかった。

2. 人材養成

幼・小・中・高等学校や大学、社会教育等の教育関係者、行政機関、NPO・NGO、企業関係者などを対象に、人材養成のためのプログラム開発や運営への助言等を行った。

(1) ボランティア学習研究フォーラムの開催

協会の『事務局運営会議』を中心に、オンラインを活用したボランティア学習研究フォーラム『ボランティアジャンボリー』（仮称・対象：高校生、大学生）、『卒論発表会』（仮称・対象：大学生）の在り方について協議をすすめた。

(2) 講師の紹介・派遣

ボランティア学習の推進に関する講師派遣への協力や講師の紹介等を行った。

(3) 後援および協力団体等としての支援

『熊本市国際交流振興事業団』が主催し、高校生、大学生が企画運営するボランティアワークキャンプに協力団体として支援した。

- ①第17回『国際ボランティアワークキャンプ in Aso』（2022年8月12日～14日、実施主体：高校生による「ボラキャン実行委員会」、会場：国立阿蘇青少年交流の家）
- ②第10回『グローバルワークキャンプ』（2023年3月8日～10日、実施主体：大学生による「グローバルキャン実行委員会」、会場：熊本イスラミックセンター、熊本城）

3. 情報提供

協会活動の広報や会員への情報提供などを行った。

- (1) 公式ホームページ『Volunteer Learning Web』を活用して広報活動を行った。
- (2) 会員を対象に、会報『Volunteer Learning』（年2回）を発行した。

4. ボランティア学習を顕彰する『アレックディクソン賞』の授与

“世界のボランティアの父”アレックディクソン博士の功績を記念した第17回『アレックディクソン賞』（2022年度）を授与し、優れた実践者、推進者、若い研究者を顕彰した。

(1) 実施主体

- ①日本ボランティア学習協会『アレックディクソン賞選考委員会』による選考を行った。
- ②受賞者には、賞状および協会特製の記念オブジェを授与した。

(2) 『アレックディクソン賞』授与の各部門と選考方法・対象について

部 門	内 容	選 考	対 象
ボランティア 学習研究部門	優れた研究活動を行った人や組織に授与	会員が『研究紀要』に応募した論文を対象に審査	40歳未満の研究者を対象
ボランティア 学習実践部門	優れた実践活動を行った人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考委員会で審査	児童生徒・学生や組織等を対象
ボランティア 学習推進部門	優れた推進活動を行った人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考委員会で審査	推進活動を行う個人・組織等を対象

（授与する対象は、原則として各1名または1組織）

(3) 選考日程

	日 程	方 法
①会員推薦募集期間	7月1日～9月30日	会員による推薦方式で行い、ホームページや会報等で募集する。推薦締め切りは、9月30日。
②選考	10月初旬	『アレックディクソン賞選考委員会』で審査する。
③発表	10月末日	受賞者に通知し、協会ホームページ等で発表する。
④表彰	10月～12月	『日本ボランティア学習学会』開会式で表彰する。

(4) 2022年度の受賞者

『アレックディクソン賞選考委員会』により選考した2022年度受賞者は下記のとおり。

2022年度 受賞者	ボランティア学習研究部門	（該当者なし）
	ボランティア学習実践部門	特定非営利活動法人『KEYS』
	ボランティア学習推進部門	田鶴浜地方史の会

(5) 受賞者の表彰

受賞者には、第25回『日本ボランティア学習学会島根大会』で賞状および記念オブジェを授与した。

(6) 『アレックディクソン賞』を運営する基金を設けて寄付者を募集した

『アレックディクソン賞基金』を設けて、会員をはじめ個人や組織、財団、企業等に賛助寄付（個人一口1,000円、組織一口100,000円）を募り運営の財源にあてた。

5. 調査研究とアドバイザーサービス

会員が中心になり、ボランティア学習をはじめ、サービ斯拉ーニング、市民教育、生涯学習、地域学校協働活動などの推進や、学校教育や社会教育の現代的課題に応えた先駆的教育モデルを調査研究し、教育機関等に情報提供や助言を行った。

6. 国際交流

ボランティア学習の発展に寄与するために、つぎの国際交流活動や海外情報の収集・提供を行った。

(1)『日英ギャップイヤー計画』 (Japan-UK Gap Year Project)

英国の非営利組織『Project Trust』との提携により「ギャップイヤー・ボランティア」(Gap Year Volunteer)の日本側受け入れ窓口として、活動先募集・発掘、研修・助言・活動支援などを行っている。英国青年ボランティア(各活動先に2名)の活動期間は、9月から翌年8月まで(英国の学期制度)の1年間である。

コロナウイルス感染拡大前(2019年)の国内受け入れ先は、『洞爺湖町』(北海道)、『順天中高等学校』、『昭和女子大学附属中高等学校』(東京都)、『一燈園・燈影学園』(京都府)であった。しかし、2020年に感染問題が“世界的パンデミック”となったため活動を休止した。翌年の2020年9月からの受け入れは中止したが、2022年度9月からは順天中高等学校のみ受け入れを再開(2022年9月～2023年8月・2名)し、現在活動中である。

(2)国際交流情報の提供

会員を対象に、英・米国等のボランティア学習に関する海外の研究情報や国際交流窓口を紹介した。

7. 政策提案

ボランティア学習の発展とよりよい社会環境の開拓のために、国及び地方自治体、関係諸機関の各種審議会や研究委員会等に参加し、政策提言活動を行った。

8. 組織運営

協会活動の充実のために、つぎの組織運営を行った。

(1)各種会議

2022年度は役員(理事・監事)の改選期であるため、会員総会、理事会、組織運営理事会で新規役員改選のための審議を行った。

- ①会員総会：第25回『日本ボランティア学習学会・島根大会』(11月26日・ハイブリッド)で開催した。
会員総会において、第14期(任期：2022年11月～2024年度11月)理事・監事の役員改選を行った。
総会への出席会員は16名、委任状の提出者は65名であった。

第14期役員(任期：2022年11月～2024年11月)		※所属・敬称略
理事	興梠 寛(代表)、栗田允治(副代表)、橋本洋光(副代表)、名賀 亨(副代表)、大坪直子(常任)、八木浩光(常任)、中野 充(常任)、立柳 聡(常任)、斉藤 睦(常任)、木村清一、齊藤ゆか、富永耕造、原田多美子、中家由紀子、今西幸蔵、高田 研、仲 伯維、服部英二、西尾雄志、高見大介、北見靖直、有里泰徳、磯田浩司、青山鉄平、馬場裕次郎、山本裕一、出口寿久、長沼 豊、鳥羽 茂、大畑伸幸、柴崎あい、木下直子、田中 人	(以上33名)
監事	甲野綾子、浅野和久	(以上2名)

- ②理事会：〔第1回理事会〕11月20日日曜日10:00～12:00(オンライン)に開催。
〔第2回理事会〕2023年3月26日日曜日10:00～12:00(オンライン)に開催。
③組織運営理事会：組織運営に必要な会議をオンライン等で行った。

(2) 各種委員会の開催

委員会	活動内容
①『研究紀要』編集委員会	『研究紀要』の原稿募集・選考・査読・編集・発行などを行った。
②『アレックディクソン賞』選考委員会	『アレックディクソン賞』の募集・選考、および基金運営・財源の開拓などを行った。

(3) 会員の拡大

①理事が中心になって会員の拡大活動をすすめている。とくに若い世代の参加が課題である。

②学校・社会教育関係者、NPO や企業などの多彩な研究者や実践者の参加を募っていく。

(4) 財源の開拓

理事が中心になり、会費収入や寄付金、補助金の拡大、事業収入等の開拓などを行うことが必要である。

(5) 組織運営

組織運営のために首都圏の理事等を中心に役割を分担し、毎月 1 回程度の「事務局運営会議」を開催し組織運営を行った。また、必要に応じて事務を補助するアルバイト・スタッフを雇用した。

9. 運営体制（2022 年度）

2022 年度は、理事を中心に以下の運営体制や委員会をもとに組織運営を行った。

(1) 事務局運営体制

役 割	内 容	担当理事◎印は責任者
事務局長	事務局運営に関する総合的な連絡調整	栗田
事務局次長	事務局長を補佐し事務局運営にあたる	大坪
会計・会員担当	組織運営に関する庶務・会計・会員管理	◎大坪、橋本、中家
広報出版担当	ホームページ等による組織広報及び出版	◎中家、興梠
研究紀要担当	研究論文の募集・査読と紀要編集発行	◎服部、栗田、仲、池田
国際交流担当	ギャップイヤー計画の推進・国際交流	◎中家、興梠、立柳
ディクソン賞担当	アレックディクソン賞の運営	◎興梠、名賀、橋本、原田

(2) 常設委員会担当理事

(委員会)	(活動内容)	担当理事 ◎印は委員長
研究紀要編集委員会	会員を対象に『研究紀要』の原稿募集・選考・査読・編集・発行などを行う。	◎服部、栗田、馬場、今西、斎藤（睦）池田、西原
『アレックディクソン賞』選考委員会	『アレックディクソン賞』の募集・選考・基金運営・財源の開拓を行う。	◎興梠、橋本、讃岐、木村、服部、西尾

日本ボランティア学習協会
2022年度一般会計収支報告(案)

1. 収入の部

項 目	予算額	決算額	内 訳
①会費	484,000	361,000	一般@5,000円×71名、学生@1,000円×6名
②寄付収入	20,000	30,000	
③販売収入	10,000	17,480	紀要・ブックレット販売
④事業収入	0	0	講師紹介等収入
⑤雑収入	3	0	利子等
⑥繰入金収入	747,773	747,773	前年度繰入金
	1,261,776	1,156,253	

2. 支出の部

項 目	予算額	決算額	内 訳
(1)事務局費	238,000	65,615	
①賃金	60,000	10,000	アルバイト賃金
②旅費	10,000	0	事務局・役員旅費
③印刷製本費	70,000	2,079	会報等の印刷
④消耗品費	20,000	4,519	封筒・紙・文具等
⑤通信運搬費	30,000	26,082	郵送費・各種連絡費
⑥借損費	10,000	0	会議室借用料等
⑦会議費	30,000	22,110	ZOOMライセンス料等
⑧雑費	8,000	825	振込手数料等
(2)事業費	610,000	517,133	
①研究紀要の発行	250,000	240,352	印刷製本費、郵送費
②ボランティア学習学会運営準備金	200,000	208,000	準備金、要項印刷、紀要販売代金の寄付
③ギャップイヤー推進委員会		0	
④実践交流の場の提供	10,000	0	
⑤ホームページ運営費	150,000	68,781	サーバー契約、管理費、
(3)予備費	413,776	0	
支出合計	1,261,776	582,748	

収入合計	1,156,253	
支出合計	582,748	
残金	573,505	2023年度へ繰越

日本ボランティア学習協会
2022年度特別会計アレックディクソン賞基金収支報告(案)

1. 収入の部

項 目	予算額	決算額	内訳
①寄付金収入	50,000	51,000	アレックディクソン賞基金
②雑収入	0	0	
③繰入金	334,591	334,591	
	384,591	385,591	

2. 支出の部

項 目	予算額	決算額	内訳
アレックディクソン賞運営費	50,000	1,995	アレックディクソン賞基金として繰越
①通信運搬費	20,000	830	
②消耗品費	20,000	0	
③旅費	0	0	
④雑費	10,000	1,165	
アレックディクソン賞基金	334,591	383,596	
	384,591	385,591	

□日本ボランティア学習協会□
2023 年度事業計画（案）

1. 研究活動

ボランティア学習の実践と研究の発展をめざしてつぎの研究活動を行う。

(1) 第 26 回『日本ボランティア学習学会』の開催

- ①開催日時：2022 年 11 月 25 日・26 日（予定・交渉中）
- ②開催テーマ：（大会実行委員会を発足し検討する）
- ③運営主体：第 26 回『日本ボランティア学習学会』実行委員会（仮称）
- ④開催場所：松蔭大学キャンパス：（神奈川県厚木市）
- ⑤開催事務局：松蔭大学・仲 伯維 研究室
- ⑥開催内容：（大会実行委員会を発足し企画する）

(2) 研究紀要『ボランティア学習研究』（第 24 号）の編集と発行

会員のための研究発表の場として、研究紀要『ボランティア学習研究』（第 24 号（2023 年度版））を編集し発行する。また、

- ①応募研究論文や実践報告を『研究紀要編集委員会』で審査・査読を行い掲載する。
- ②応募論文や実践報告の他、現代的な研究テーマを設定した課題研究、研究情報、書評など研究者・実践者の多様なニーズに応えた編集を行なう。また、併せて会務報告、協会会則、アレックディクソン賞推薦要項・推薦用紙、紀要投稿申込書などを掲載する。

研究紀要の発行までの編集スケジュール（予定） ※日程の変更有	①論文・実践報告の応募希望受付締め切り	2023年6月20日
	②論文・実践報告の原稿提出締め切り	2023年8月30日
	③応募論文の審査結果通知	2023年11月10日
	④研究紀要の発行	2024年3月下旬

③紀要編集事務局は、松蔭大学（仲 伯維研究室）に設置する。

④研究紀要の質量の充実のために、『事務局運営会議』を活用して編集方針・方法・内容を協議する。

(3) 会員の教材出版への支援

会員の実践や研究の成果を教材等に編集・出版し社会に提供するための支援を行なう。

①申込み	会員（執筆者）が出版計画を送付し申し込む。
②出版認証	『広報出版委員会』が出版を認証し、執筆へのアドバイス等を行う。
③制作委託	執筆者は、本の編集・制作を『広報出版委員会』に委託する。
④発行	発行元（版權者）は協会とし、執筆者（著作権者）は会員とする。
⑤買い取り	完成本は、執筆者が買い取ることを条件とする。
⑥販売支援	公式ホームページ、学会、会員への広報等を通して販売を支援する。

※この出版支援を会員が活用していただくよう積極的に広報する。

2. 人材養成

幼・小・中・高等学校や大学、社会教育等の教育関係者、行政機関、NPO・NGO、企業関係者などを対象に、人材養成のためのプログラム開発や運営への助言等を行う。

(1) ボランティア学習研究フォーラムの開催

協会の『事務局運営会議』を中心に、ボランティア学習研究フォーラム『ボランティアジャンボリー』（仮

称・対象：高校生・大学生等）や、『卒論発表会』（仮称・対象：大学生等）の実現に向けて協議をすすめる。

(2) 講師の紹介・派遣

ボランティア学習の推進に関する講師派遣への協力や講師紹介等を行う。

(3) 後援および協力団体等としての支援

『熊本市国際交流振興事業団』が主催し、高校生、大学生が企画運営するボランティアワークキャンプに協力団体として支援する。

①第18回『国際ボランティアワークキャンプ in Aso』（2023年8月16日～18日、実施主体：高校生による「ボラキャン実行委員会」、会場：国立阿蘇青少年交流の家）

②第11回『グローバルワークキャンプ』（実施主体：大学生による「グロキャン実行委員会」、開催日・会場は検討中）

3. 情報提供

協会活動の広報や会員への情報提供などを行う。

(1) 公式ホームページ『Volunteer Learning Web』を活用して広報活動を行う。

(2) 会員を対象に、会報『Volunteer Learning』（年2回）を発行する。

4. ボランティア学習を顕彰する『アレックディクソン賞』の授与

“世界のボランティアの父”アレックディクソン博士の功績を記念した第18回『アレックディクソン賞』（2023年度）を授与し、優れた実践者、推進者、若い研究者を顕彰する。

(1) 実施主体

①日本ボランティア学習協会『アレックディクソン賞選考委員会』による選考を行う。

②受賞者には、賞状および協会特製の記念オブジェを授与する。

(2) 『アレックディクソン賞』授与の各部門と選考方法・対象について

部 門	内 容	選 考	対 象
ボランティア 学習研究部門	優れた研究活動を行った人や組織に授与	会員が『研究紀要』に応募した論文を対象に審査	40歳未満の研究者を対象
ボランティア 学習実践部門	優れた実践活動を行った人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考委員会審査	児童生徒・学生や組織等を対象
ボランティア 学習推進部門	優れた推進活動を行った人や組織に授与	会員の推薦をもとに選考委員会審査	推進活動を行う個人・組織等を対象

（授与する対象は、原則として各1名または1組織）

(3) 選考日程

	日 程	方 法
①会員推薦募集期間	7月1日～9月30日	会員による推薦方式で行い、ホームページや会報等で募集する。推薦締め切りは、9月30日。
②選考	10月初旬	『アレックディクソン賞選考委員会』で審査する。
③発表	10月末日	受賞者に通知し、協会ホームページ等で発表する。
④表彰	10月～12月	『日本ボランティア学習学会』開会式で表彰する。

※全国各地の優れた実践・研究を発掘し社会に顕彰するために会員からの広報・推薦をお願いする。

(4) 受賞者の表彰

受賞者には、第26回『日本ボランティア学習学会』で賞状および記念オブジェを授与する。

(6) 『アレックディクソン賞』を運営する基金を設けて寄付者を募集した

『アレックディクソン賞基金』を設けて、会員をはじめ個人や組織、財団、企業等に賛助寄付（個人一口1,000円、組織一口100,000円）を募り運営の財源にあてる。

※会員のさらなる広報活動や寄付の促進をお願いしていく。

5. 調査研究とアドバイザリーサービス

会員が中心になり、ボランティア学習をはじめ、サービスラーニング、市民教育、生涯学習、地域学校協働活動などの推進や、学校教育や社会教育の現代的課題に応えた先駆的教育モデルを調査研究し、教育機関等に情報提供や助言を行った。

6. 国際交流

ボランティア学習の発展に寄与するために国際交流活動や海外情報の収集・提供を行う。

(1) 『日英ギャップイヤー計画』 (Japan-UK Gap Year Project)

英国の非営利組織『Project Trust』との提携により「ギャップイヤー・ボランティア」(Gap Year Volunteer)の日本側受け入れ窓口として、活動先募集、研修・助言・活動支援などを行う。

2023年3月現在、2023年度9月からの新規受け入れ先として、『洞爺湖町』(北海道)、『順天中高等学校』(東京都)、『一燈園・燈影学園』(京都府)の3か所が受け入れ意向を表明している。

今年度の受け入れボランティアは2名一組で計6人。活動期間は9月から翌年8月まで(英国の学期制度)の1年間である。

※英国派遣先『Project Trust』は、日本での活動希望者が多いため、さらなる新規活動先の開拓を要請してきている。会員各位には、日本において「ギャップイヤー・ボランティア」制度への理解と関心が高まるよう普及啓発活動をお願いするとともに、新規受け入れ先の開拓をお願いします。

(2) 国際交流情報の提供

会員を対象に、英・米国等のボランティア学習に関する海外の研究情報や交流窓口を紹介する。

7. 政策提案

ボランティア学習の発展とよりよい社会環境の開拓のために、国及び地方自治体、関係諸機関の各種審議会や研究委員会等に参加し政策提言活動を行う。また、政策提案の内容やその成果物を提供していただき、協会のメディア等を活用して会員等に周知していく。

8. 組織運営

協会活動の充実のために、つぎの組織運営を行う。

(1) 各種会議

2023年度から、「会員総会」を新年度の始めの時期(5月を予定)に実施する。また、これまで『学会』期間中に開催していた「会員総会」は、「会員交流会」(仮称)に衣替えして行い、会員同士の親睦を深める機会として活用する。

① 会員総会

2023年5月を予定

② 理事会：〔第1回理事会〕2023年11月上旬に開催する。

※事業の中間報告や進捗状況、学会の運営等を協議する。

〔第2回理事会〕2024年3月下旬に開催する。

※事業報告・決算報告(中間)及び新年度の事業計画・予算計画等を協議する。

③ 組織運営理事会：代表、副代表、常任理事によって組織運営のために必要な会議を行う。

(2) 各種委員会の開催

委員会	活動内容
①『研究紀要』編集委員会	『研究紀要』の原稿募集・選考・査読・編集・発行などを行う。
②『アレックディクソン賞』選考委員会	『アレックディクソン賞』の募集・選考、および基金運営・財源の開拓などを行う。

(3) 会員の拡大

- ①理事が中心になって会員の拡大活動をすすめる。とくに若い世代の参加が課題である。
- ②学校・社会教育関係者、NPO や企業などの多彩な研究者や実践者の参加を募っていく。

(4) 財源の開拓

理事が中心になり、会費収入や寄付金、補助金の拡大、事業収入等の開拓などを行う。

(5) 組織運営

組織運営のために首都圏の理事等を中心に役割を分担し、毎月 1 回程度の「事務局運営会議」を開催し組織運営を行う。また、必要に応じて事務を補助するアルバイト・スタッフを雇用する。

9. 運営体制（2023 年度）

2023 年度は、理事を中心に以下の運営体制や委員会をもとに組織の運営を行う。

(1) 理事

第 14 期役員（任期：2022 年 11 月 26 日～2024 年度総会時） ※所属・敬称略	
理事	興梠 寛（代表）、栗田允治（副代表）、橋本洋光（副代表）、名賀 亨（副代表）、大坪直子（常任）、八木浩光（常任）、中野 充（常任）、立柳 聡（常任）、斎藤 睦（常任）、木村清一 斎藤ゆか、富永耕造、原田多美子、中家由紀子、今西幸蔵、高田 研、仲 伯維、服部英二 西尾雄志、高見大介、北見靖直、有里泰徳、磯田浩司、青山鉄平、馬場裕次郎、山本裕一 出口寿久、長沼 豊、鳥羽 茂、大畑伸幸、柴崎あい、木下直子、田中 人 （以上 33 名・順不同）
監事	甲野綾子、浅野和久 （以上 2 名）

(2) 事務局運営体制

役 割	内 容	担当理事
事務局長	事務局運営に関する総合的な連絡調整	栗田允治
事務局次長	事務局長を補佐し事務局運営を行う	大坪直子
会計・会員	組織運営に関する庶務・会計・会員管理	大坪直子、橋本洋光、中家由紀子
広報出版	ホームページ等による組織広報及び出版	中家由紀子、興梠 寛
研究紀要	研究論文の募集・査読と紀要編集発行	仲 伯維、栗田允治
国際交流	ギャップイヤー計画の推進・国際交流	中家由紀子、興梠 寛、立柳 聡
ディクソン賞	アレックディクソン賞の運営	興梠 寛、名賀 亨、橋本洋光、原田多美子

(3) 常設委員会担当理事

委員会	活動内容	担当理事
研究紀要編集委員会	会員を対象に『研究紀要』の原稿募集・選考・査読・編集・発行などを行う	今西幸蔵、栗田允治、斎藤 睦、馬場裕次郎、立柳 聡、長沼 豊
『アレックディクソン賞』選考委員会	『アレックディクソン賞』の募集・選考・基金運営・財源の開拓を行う	興梠 寛、西尾雄志、橋本洋光、名賀 亨、大坪直子、磯田浩司、大畑伸幸、柴崎あい、八木浩光

**日本ボランティア学習協会
一般会計2023年度予算(案)**

1. 収入の部

項 目	予算額	内 訳
①会費	460,000	一般5,000×90、青年2000×2、学生1,000×6
②寄付	20,000	
③販売収入	10,000	
④事業収入	0	講師紹介等収入
⑤雑収入	3	利子等
⑥繰入金収入	573,505	前年度繰入金
合計	1,063,508	

2. 支出の部

項 目	予算額	内 訳
(1)事務局費	143,000	アルバイト賃金@1,000×20 事務局・役員旅費 会報、協会リーフレット作成費他 インクカートリッジ・紙・文具等 郵送費・各種連絡費 会議室借用料等 ZOOMライセンス料 振込手数料等
①賃金	20,000	
②旅費	0	
③印刷製本費	60,000	
④消耗品費	10,000	
⑤通信運搬費	25,000	
⑥借損費	0	
⑦会議費	25,000	
⑧雑費	3,000	
(2)事業費	630,000	印刷製本費、郵送費 ボランティア学習学会大会 研究フォーラムの開催等 サーバー契約、メンテナンス費
①研究紀要の発行	270,000	
②ボランティア学習学会運営準備金	200,000	
③実践交流の場の提供	60,000	
④ホームページ運営費	100,000	
(3)予備費	290,508	
合計	1,063,508	

日本ボランティア学習協会
2023年度特別会計アレックディクソン賞基金予算(案)

1. 収入の部

項 目	予算額	内 訳
①寄付金収入	50,000	アレックディクソン賞基金
②雑収入	0	
③繰入金	383,596	
合計	433,596	

2. 支出の部

項 目	予算額	内 訳
アレックディクソン運営費	215,000	募集、調整 賞品、賞状作成費 受賞者旅費
①通信運搬費	5,000	
②消耗品費	175,000	
③旅費	30,000	
④雑費	5,000	アレックディクソン賞基金として繰越
アレックディクソン賞基金	218,596	
合計	433,596	